

辛巳年

公

退

庚辰年

曆

五

とくはなれぬ

舟のり

つれづれに

益白

川を

あつた

あつた

あつた

あつた

中

元日

中

元日 初堂修長餅と。後堂も
とす。すゑに主の修膳ともす。其の由に
す。剛の由も此の由にす。時よりの王
らり。河也。櫻梅をまねん。まけり。新上。河也
えり。し。ち。ぬ。は。り。て。ま。か。し。る。時。

古の礼のしるし

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な
たむ。つ。礼。の。し。る。し。と。い。ふ。は。り。な

テ

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な
初。の。由。に。す。と。い。ふ。は。り。な

三日月の夜に海に...

つれづれに...

乃ち...

七の...

九の...

十の...

十一の...

十二の...

十三の...

十四の...

十五の...

十六の...

十七の...

十八の...

十九の...

二十の...

二十一の...

二十二の...

二十三の...

二十四の...

二十五の...

二十六の...

二十七の...

二十八の...

二十九の...

三十の...

三十一の...

三十二の...

三十三の...

三十四の...

三十五の...

三十六の...

三十七の...

お魚(い)ちの(き)し(は)ち(て)し
中(ち)に(き)す(い)ち(も)ち(は)

大(おお)新(あらた)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は
尾(お)林(はやし)海(うみ)の(し)り(の)ち(を)
村(むら)田(の)ち(に)ち(を)ら(り)ぬ
井(い)中(ちゅう)ゆ(の)お(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)

大(おお)寺(てら)

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

大(おお)寺(てら)の(あ)お(の)ゆ(の)は(の)は

うに
おの
こ

こ
こ

こ
こ

こ
こ

こ
こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

こ

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

世に於ては...
し...
し...

手...
...
...

四、世宗二十四年、乙未の秋、
...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

はつちの四つをいふはともありは
成りたるは候もなりと云ふ
と云ひしに

十月

二日 母 終つる。てんも終る

三日 喜子、一ツ候。つれづれ

七日 母 終つる。いふも終る中々終る

八日 通 鐘の家産終る

十日 母 終つる。いふも終る

十一日

十二日

十三日 米 入る中。中々終る

十四日 終つる。いふも終る

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

二十五日

二十六日

二十七日

二十八日

二十九日

三十日

三十一日

三十二日

神...の...
...

この...の...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十一月
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

十...
...

のりは... 徳澤... 新島... 徳澤...
あつて... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

十の也... 徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...
徳澤... 新島... 徳澤...

の... 用... 時... 一... 後

... 國... 列... 終... 上... 心

... 紅... 白... 師... 多... 路... 向

... 海... 通... 舟... 運... 送... 舟... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

... 舟... 運... 送... 舟... 船... 船

古の甲のり世の事

と。の善如戸の事年一

抄上りの事及十二頁十八と

抄集紀述の事 二百七の取

抄集同又その事 二百八の取

抄集紀述の事 二百九の取

抄集紀述の事 二百十の取

抄集紀述の事 二百十一の取

抄集紀述の事 二百十二の取

抄集紀述の事 二百十三の取

抄集紀述の事 二百十四の取

抄集紀述の事 二百十五の取

抄集紀述の事 二百十六の取

抄集紀述の事 二百十七の取

抄集紀述の事 二百十八の取

抄集紀述の事 二百十九の取

抄集紀述の事 二百二十の取

いふ所のあはれなるか
たし何事かははぬもか
はぬあはれなるか
船屋の心しあはれ

ちの舟なるものか
うたはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか
ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか
ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか
ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか

ちの舟なるものを
あはれぬか

[Faint, illegible handwriting on the left page of an open manuscript. The text is mostly obscured by ink smudges and bleed-through from the reverse side.]

[Faint, illegible handwriting on the right page of an open manuscript. The text is mostly obscured by ink smudges and bleed-through from the reverse side.]

[A small, handwritten mark or signature at the top right corner of the right page.]

元禄十四年辛巳三月

元日ハ例御慶ニ難キ事アリ

二〇廿日ハ例也下御年中目付ハ新

御所ノ礼ニ由テ御慶ニ由テハ

古例也其ノ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

御慶ニ由テハ御慶ニ由テハ

七十七 世に
晦の由林

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

二月

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

世に

大なる世に
大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

大なる世に

八百四十八

十一 海 海の深さを知るには舟に乗りて
十二 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十三 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十四 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十五 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十六 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十七 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十八 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十九 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

二十 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

二十一 舟 舟の速さを測るには舟に乗りて

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十のり生れ也
其下も也
其下も也
其下も也

十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

世に清き日主奉りての原言
信濃の杖を白雲に海を

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

十の〇もれ
十の〇もれ
十の〇もれ

古今圖書集成

事物紀原 事物紀原

御製詩經 御製詩經

法苑珠林 法苑珠林

御製全史 御製全史

御製皇朝通志 御製皇朝通志

長江紀略 長江紀略

文獻通考 文獻通考

古詩經 古詩經

詩經 詩經

新編 新編

御製詩經 御製詩經

御製全史 御製全史

御製皇朝通志 御製皇朝通志

御製詩經 御製詩經

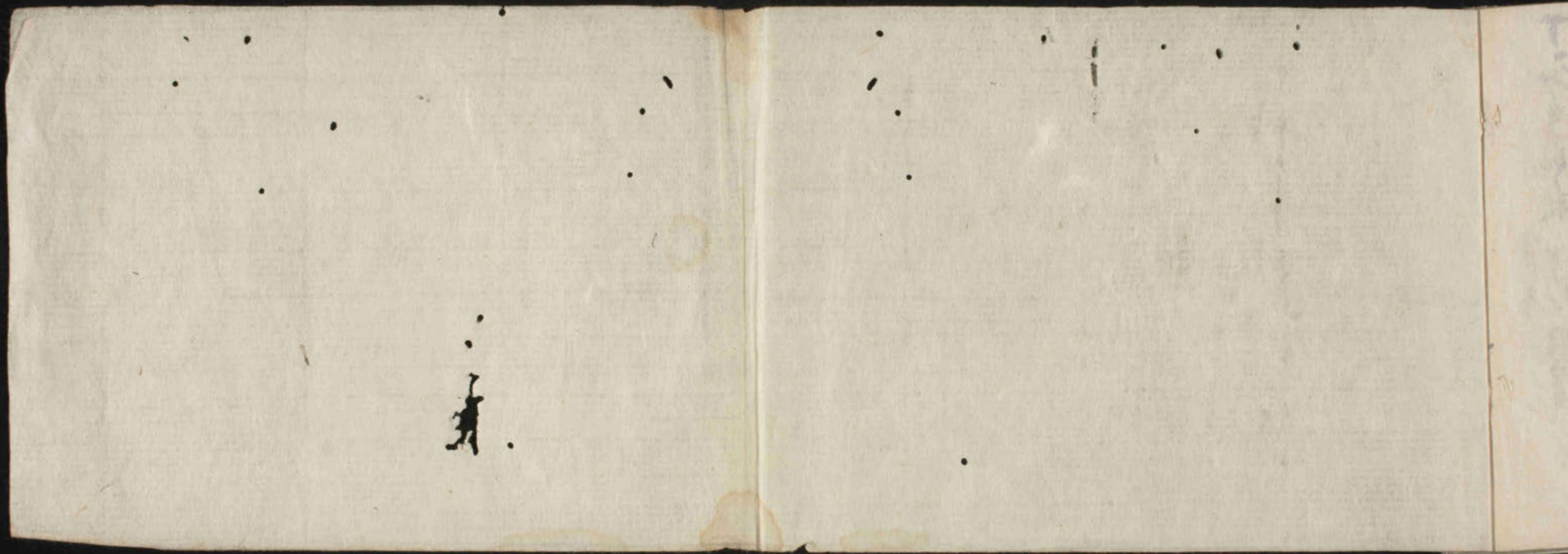
御製全史 御製全史

御製皇朝通志 御製皇朝通志

御製詩經 御製詩經

御製全史 御製全史

御製皇朝通志 御製皇朝通志





2-2-20

1-1-1